

CIVITAS Forum 2019

Report of CIVITAS Forum 2019

絹田裕一¹

By Yuichi KINUTA

1 はじめに

CIVITAS (City VITAlity Sustainability) は、欧州委員会のモビリティ・運輸総局が主催する持続可能な都市交通政策プログラムである。EUは、環境や持続可能性といった課題に関する先進的な取組に対して支援を行い、交通政策や都市再生の分野の担当者のスキルアップや知識の共有、欧州全体のモビリティ力の向上を図っている。

CIVITASは、2002年～2006年のCIVITAS Iに始まり、2019年現在、5期目のCIVITAS 2020 (2016年～2020年) が進行中となっており、CIVITAS 2020では、以下に示す10のテーマ領域が設定され、CIVITAS Forumと呼ばれる年1回開催の会合で各都市の施策事例の情報提供や意見交換が行われている。

【CIVITAS 2020のテーマ領域】

1. 車に依存しないライフスタイル
2. クリーンな燃料と自動車
3. 集団旅客輸送
4. 交通需要マネジメント戦略
5. 交通機関の統合計画
6. モビリティ・マネジメント
7. パブリック・インボルブメント
8. 安全と安心
9. 交通移動通信システム
10. 都市物流

本稿では、2019年10月2日～4日の3日間、オーストリアの人口第2の都市であり、南東部に位置するシュタイアーマルク州の州都でもあるグラーツにて開催されたCIVITAS Forum 2019の概要と、併せて視察を行ったウィーンの交通について報告する。

2 CIVITAS Forum 2019について

CIVITAS Forum 2019は、全体セッションから始まり、3日間を通じて30のセッション(分科会)において各都市の取り組みの紹介や意見交換がなされた。

表-1 CIVITAS Forum 2019のセッション

主なセッションタイトル
自転車の新しいガイドラインとサイクル～都市への実装方法～
交通安全：「Vision Zero」の達成
都市部での車両アクセス規制への移行
デジタルモビリティツールとサービス
大規模なEV展開に向けた充電施設
統合型の新たなモビリティサービスに向けて：欧州及びCIVITASプロジェクトでのMaaSの事例
交通におけるビッグデータ、デジタルソリューション、人工知能
新しい技術と戦略によって、人々の行動を変えることはできるか
Horizon 2020 プロジェクトの成功：プロジェクトの終了が始まりに過ぎない
Mobility Planning を成功させるための鍵：持続可能なUrban Mobility Planningの実践
住みやすい都市における安全で効率的な貨物サービスの動向
代替燃料：交通の脱炭素化への道筋
持続可能なモビリティの重要な指標としての交通分担：CIVITAS、SUMI プロジェクト、ヨーロッパの都市での経験
Living Labs：持続可能な都市交通におけるオープンイノベーションの方法とデザイン
駐車革命 (Parking Revolution) の開始
サイクリングとウォーキングの将来
全ての人のための交通：農村部と都市周辺部のモビリティを改善するための挑戦
MaaS 実践のための準備
より広い都市エリア全体のモビリティの改善
自動運転のための持続可能な Urban Mobility Planning
スウェーデン政府による都市環境に関する協定
近隣地域レベルでの包括的コミュニティの関与：子ども、少数民族、高齢者等の利益のための改善
観光地をより魅力的にするためのスマートで持続可能なモビリティについて
新たなモビリティサービスや、既存の価値観を崩す技術：今後10年の政策面の論点
多様性、性別等の社会学・人口学的な課題：自由市場的解決か、政治介入か
自転車とITS：よりスマートな自転車利用の形成

¹ 交通・社会経済部門 担当部門長兼グループマネジャー



写真-1 オープニングセッションの様子(筆者撮影)

今回のCIVITAS Forum 2019は、会議の1ヶ月前の時点で参加希望者多数のため、会議への参加自体がキャンセル待ちになるなど、前例にないほどの盛況を極めた。近年、「所有」から「共有(シェア)」へとという消費者のパラダイムシフトの中で、ICT技術の進展に伴い、MaaS等の新たな交通システムが注目を集める等、都市交通分野において今まさにイノベーションが起きているところであり、今回の会議の盛況ぶりはその象徴であろうと感じた。

会議でも、MaaS等の新たなモビリティサービスやツールに関するセッションが多く設けられ、活発な意見交換がなされた。

3 ウィーンにおけるMaaSの実装状況

今回のCIVITAS Forum 2019への参加では、会議参加前に首都ウィーンを訪問し、都市交通の視察を行った。ウィーンは欧州の中でも、充実した公共交通網やシームレスな乗り継ぎ等による利便性の高い都市として知られているが、近年は、シェアリングサービスの充実(自転車、キックボード、自動車)、MaaSの実装等、都市のスマート化等の取組みを行っている。

写真-2は、ウィーン市内のMaaSアプリケーション「Wien Mobil」の画面である(他にWhim等、アプリが複数展開)。Wien Mobilは、公共交通に加え、新たなモビリティ(自転車シェア、電動キックボード、カーシェア)やタクシー、駐車場など全ての交通情報が統合されている。公共交通のほか一部サービス(電動キックボード)では予約や支払いも可能である。実際に、市街地内を移動中にWien Mobilを起動してみたところ、位置・時刻の変化に合わせて提供情報が随時更新され、「いつ」「どこで」「どの交通手段が使えるのか」が分かりやすく、非常に便利であった。



写真-2 Wien Mobilの画面

ウィーン市交通局は、Wien mobilのサービスに加え、主要なトラムの停留所等において、モビリティハブ(Wien Mobil Station)の整備を進めている。ここでは、シェアサイクル、カーシェアのデポの他、駐輪ボックス、自転車の修理工具、サイネージ等が設置(写真-3)され、ラストワンマイルのサービスを提供している。カーシェアやシェアサイクルの車両や各設備もアプリと同じロゴ等に統一されており、Wien Mobilのアプリを通して、端末交通まで含めた移動のトータルサービスを目指している戦略が色濃く出ていると感じた。



写真-3 Wien Mobil Station (Simmering 駅)
手前から駐輪ボックス、カーシェア、シェアサイクル
(筆者撮影)

今回のウィーンの都市交通視察において改めて感じたのは、MaaSアプリの使い勝手もさることながら、異なる複数交通手段がシームレスに連携している公共交通システムである。利便性の高い交通基盤にMaaSアプリを導入することで、更なる利便性向上を実現している。我が国においてもMaaS導入に向けた動きが活発となっているが、アプリケーションの導入に併せ、事業者間のシームレスな連携が進むことに期待したい。

参考文献

- 1) CIVITAS Forum 2019 ホームページ (<https://civitas.eu/forum2019>)